

*** 海鳴社の新刊本 ***

- ・ まえがき
- ・ おばあちゃんの名前は珠子と言います
- ・ 珠子の小学校時代 (一)
- ・ 珠子の小学校時代 (二)
- ・ 商家の食卓
- ・ 女学校時代 (一)
- ・ 女学校時代 (二)
- ・ 高等科追記
- ・ 珠子の時代の結婚準備
- ・ 珠子の結婚
- ・ 新生活
- ・ 昭和十八年、戦争初期の暮らし
- ・ 分家
- ・ 終戦
- ・ 戦後の生活
- ・ 旧五条通の景色
- ・ 昭和二十二年～二十五年頃 (一)
- ・ 昭和二十二年～二十五年頃 (二)
- ・ 昭和二十五年～二十七年頃
- ・ 昭和二十八年～三十年頃 (一)
- ・ 昭和二十八年～三十年頃 (二)
- ・ 昭和三十年～三十三年頃
- ・ 現在の珠子
- ・ 珠子は今、ここに居ます
- ・ 珠子の宗教観
- ・ 秋分の日
- ・ 資料館
- ・ 美味しい塩こぶ、ちりめん山椒の作り方
- ・ 編集後記

100年を京都で過ごした珠子の大正、昭和、平成、令和と時代の移り変わりをつづった物語。夫との出会いや生活、家族との絆などが綴られた100年の苦楽の記録です。戦前、戦後、そして、高度成長期の中での生活はどのようなものだったのでしょうか。今や人生100年時代。珠子の元気の源を知ること自身の人生の参考にしてみたいかがでしょうか。

祖母(珠子)の100年を見てみると、時代というものはこんなにも早く移り変わるものかと、つくづく感じます。結婚ひとつとっても、珠子のお母さんは結婚式当日に初めて夫に会ったと書かれておりますが、珠子とその兄弟はお見合い写真を見てから決めている様子が伺えます。そしてその子供(一子)はお見合いもしましたが最終的には大学の同級生と結婚しています。その時代の価値観でそんなものと思っているのでしょう。(編集後記より)



吉川 珠子 著

帳合
冊

978-4-87525-362-4

【委託】A5判並製

全131頁

定価：本体1400円+税

12月8日より随時発売

— 珠子と京都の100年記 —

おばあちゃんの名前は珠子と言います

11月29日(水)までにお返事ください。

FAX:03-3262-1967